



ラインナップを拡げるオーディオスペースより AS6iシリーズの第3弾となる KT88プッシュアップルのAS6Mパワーアンプと 電源別筐体型のMini1998の 後継モデルとなる6V6プッシュアップルの Mini2004が発売

———篠田寛一

AS6Mは、AS6iシリーズの第3弾。初代AS6i(KT88プッシュアップル・ステレオインテグレートッドアンプ)のモノラル・ヴァージョンという位置付けだ。モノラルならではの優れたチャンネルセパレーションを軸に、一層の高音質化を追求していることをはじめ、AV用途や

5・1chマルチチャンネル・オーディオへの対応を図っている。

回路は、双3極のGT管6SL7で組んだオートバランス型の位相反転段、やはり双3極GT管の6SN7によるドライバ1段、そしてKT88PPのファイナル段という構成だ。なお、KT88は3極管接続またはUL接続。出力は25W(3極管接続、50W(UL接続)。入力は、セレクタースイッチとボリュームを経て初段に入るライン・イン端子と、直接初段に入るダイレクト・イン端子を各1系統装備する。

試聴にはエアータイトのプリアンプATE2HQを使った。最初は3極管接続にして聴いてみる。穏やかで滑らかな中にも、ほどよい厚みや深みを感じる腰の強い音である。その一方、切れ込みや分解能に多少甘いところが感じられるものの、中音域から上の帯域にのった輝きがアクセントになって弦や管楽器を艶やかに、そしてエレガントに奏で、女性ヴォーカルを妖艶に歌わせる。

UL接続では、穏やかでしかも弾力感のある鳴り方など3極管接続と共通する部分も多いが、3極管接続に比べると切れ込みが少しシャープになり、分解能もわずかに高いように感じる。そのため、ディテールがより鮮明に出てくる。

それにパワーが大きくなるだけに、エネルギー感や力感が増してよりダイナミックな表現になる。反面、中・高域の輝きが若干後退する点も否めない。そのため弦や管楽器がマットで控え目な描き出しに